



持続可能な観光

## 京都府京都市：これからの千年・京都を掲げる京都観光プラットフォーム、「LINK KYOTO」

投稿日:2024/4/3 / 最終更新日:2024/4/4

団体種別	民間事業者
団体名	LINK KYOTO
住所	京都府 京都市 下京区（株式会社JT京都支店内）
事例発生時期	2023

### 事例概要

京都市は、「京都観光モラル(京都観光行動基準)」を策定し、京都が京都であり続けるために、観光事業者・従業者等、観光客、市民と大切にしていきたいことを明文化する等、京都府・京都市がそれぞれ、持続可能な京都観光の推進に向けた取り組みを進めており、地域の力を重視した考え方へシフトしています。地域の伝統や文化に見られる共生の知恵や価値観を大切にす視点に立ち「LINK KYOTO（リンク京都）」の運営を開始いたしました。このプラットフォームは、旅行事業者であるJTグループのリソースを活用し、ステークホルダーと共同でつむぎ出した「京都観光コンテンツ」を集約し、着地型商品を販売するウェブサイト（<https://link-kpjt.com>）として地域の持続可能な観光を支えていくことを目的としています。

地域企業が観光に参画できる機会の創出や脱炭素アクション/ライフスタイルの促進、サステナブル・ツーリズムに取り組む事業者の可視化など、経済、環境、社会・文化において地域企業（非観光事業者含む）の観光コンテンツへの参加を支援している「LINK KYOTO」の取り組みを知っていただければ幸いです。

## <はじめに>

京都市は、「京都観光モラル(京都観光行動基準)」を策定し、京都が京都であり続けるために、観光事業者・従業者等、観光客、市民と大切にしていきたいことを明文化する等、京都府・京都市がそれぞれ、持続観光な京都観光の推進に向けた取り組みを進めています。

京都観光モラルは言い換えるならば、「地域が主導権を握って責任のある観光に取り組む姿勢の表れ」です。つまり、従来「光を観る」のは来訪者であったのが、光（利益、豊かさ）は地域社会、事業者、そして自然環境にも、もたらされるべきという考えのシフトでもあります。その考えにおいて特に「地域の力」への積極的な貢献が、「リジェネラティブ・ツーリズム」としてパンデミックや災害からの回復や復興の観点から注目されています（株式会社JTb, 2022）。

地域の力を重視した考え方へシフトするうえで重要な基盤となるのが、地域の伝統や文化に見られる共生の知恵や価値観です。その一例として、ニュージーランド観光局で「Tiaki（土地、人々、文化を大切に）」という、先住民のマオリの方々の考えを共通概念として掲げているものがあります。京都でも、千年の歴史を紡いできたサステナビリティについての土地の智慧とそれを支えてきた価値観があります。

この視点に立ち「LINK KYOTO（リンク京都）」は、これまで京都の歴史文化を支えてきた、そして今後も支え続けるであろうステークホルダー（地域企業、地域コミュニティ、旅行者）との関係性を再構築（つなぐ・つなげる）を持続可能な観光の軸としています。それにより、京都の持つ千年の歴史を紡いできたサステナビリティの智慧への積極的な貢献と回復を目指しています。また、このプラットフォームは、ステークホルダーと共同でつむぎ出した「京都観光コンテンツ」を集約し、着地型商品を販売するウェブサイト（<https://link-kpjtb.com/>）も運営しています。

# LINK KYOTO

## 【基本方針】

つなぐ：千年の都、京都を支え、これからの千年を支える京都の匠や地域企業との接点強化と拡大を目指す

つなげる：地域企業、JTbグループのリソース、地域企業との連携・協業を行い、新たな価値を創出する

つむぎだす：つなぎ合わせた新たな価値を更に磨き上げ、新たな事業創造を目指す

以下では、京都らしいサステナブル・ツーリズムのプラットフォームとしての3つの取り組みを紹介しています。

- ①地域企業の観光コンテンツへの参画の促進
- ②京都市・脱炭素アクションリストを活用したCO2削減型ツアー開発の取り組み
- ③京都観光モラル（京都観光行動基準）をビジョンとした地域の事業者群組成の取り組み

## <経済> 経済的に成長できる

### 【地域企業が観光に参画できる機会の創出】

「LINK KYOTO」では、以下の観点から地域企業（非観光事業者含む）の観光コンテンツへの参加を支援しています。

#### ①旅行商品（パッケージ）化機能

観光素材を観光商品として販売可能な状態までの伴走（タリフ化など）します。

旅行業免許を持たない地域企業と旅行会社が連携するスキームを効率的に構築することで、地域企業が発案する宿泊・交通付き商品を造成することが可能となります。

#### ②流通機能

「LINK KYOTO」を通じて販売可能な機能を構築することで、さまざまなターゲットへの訴求機会を提供することが可能です。

現在、「旅ナカ体験・チケット商品」「修学旅行・探求学習」「ユニークベニュー」「企業向け研修」「インバウンド

向けパッケージ型商品」「企業版・個人版ふるさと納税」等の多様な流通経路を構築中です。これによりLINK KYOTOが地域商社として様々な流通ニーズに応えることを目指しています。

### ③事務局機能

販売後のオペレーション機能を（株）JTB京都支店に一元化することで、地域全体での業務効率化を図っています。特に、問い合わせ窓口や、商品在庫管理等をワンストップで支援することで、様々な業種の地域企業の参画を促すことに繋がっています。

### ④勉強会／相談会の実施

地域企業向けの勉強会や相談会を実施することで参画障壁を取り除こうと努めています。（詳細は、下記「<社会・文化> 社会・文化的に好ましい」セクションに記載しています。）

#### 【2023年度実績】

- ・商品数：66プラン
- ・実績：販売件数535件、販売額約593万円

## <環境> 環境的に適正である

### 【京都における脱炭素アクション／ライフスタイルの促進】

「LINK KYOTO」は、「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」(※)に参加し、脱炭素アクション／ライフスタイルを促進しています。

京都市は日々の生活の中でCO2削減に貢献できることを「アクションリスト」としてまとめ、その行動を行ったことによるCO2削減効果を数値化することが可能になりました。それにより、環境負荷という点について、従来であれば、移動手段や宿泊施設の省エネルギー化やカーボンオフセットという観点でしか環境負荷軽減の取り組みを行えなかったが、アクションリストを取り入れることで、体験を通じたCO2削減へのアプローチを実施することが可能になっています。

※京都市では、二酸化炭素（CO2）を排出しない社会・経済活動への転換と併せて、脱炭素が生活の質の向上や豊かさにつながる、持続可能なライフスタイルへの転換を目指すため、「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」のもと、一人ひとりの生活の中での選択を脱炭素につなげるプロジェクトが創出されています。

### 【2050京創ミーティングでの共創プロジェクトの事例】

これまでには以下のようなプロジェクトを共創してきました。

#### ①京都らしいプラントベースド・ライフスタイルの推進プロジェクト

- プラントベースドのメニューを提供する飲食店およびアクティビティをマップ化（ヴィーガン・マップ）し、各飲食店・宿泊施設・観光案内所でツアー情報と共にQRを設置。
- 菜食を求めるインバウンド旅行者向けの旅ナカのヴィーガン・ウォーキングツアーを開発。
- CO2削減効果として、以下を指標として削減量を計測。
  1. CO2削減量：食事を完全菜食（ヴィーガン）にした場合 350kg/人
  2. 食事を菜食（ベジタリアン）にした場合 240kg/人
  3. 食事の肉類を代替肉にした場合 210kg/人※豆類・穀物・野菜などを中心とした食生活に転換すると、畜産業で出るCO2排出量を削減することができます。



#### ②里山や地域循環について知る機会の創出プロジェクト

- 小売店で販売しているモノの産地（モノの源流）を巡り、消費者の手に届くまでのモノのストーリーを知ることによって、地域循環や地産地消を考え、モノを大切にすることを目的とした体験コンテンツの開発。
- CO2削減効果として、以下を指標として削減量を計測。
  1. 地産地消による削減量：輸送エネルギーのCO2削減量×数量
  2. ものを長く大切に使うことによる削減量：
    - 廃棄に伴うCO2排出量×数量
    - 使い捨て等の新製品製造に係るCO2削減量 ×数量

## <社会・文化> 社会・文化的に好ましい

### 【サステナブル・ツーリズムに取り組む事業者の可視化】

- LINK KYOTOでは、京都観光モラル推進宣言事業者（※）の制度開始を受け、民間企業同士の機運醸成／キャパシティビルディングのための取り組みとして「京都観光モラルを推進する会」を推進しています。
- 京都らしいサステナブル・ツーリズムに資する民間事業者の取り組みを可視化するための**タブロイド紙**（Sustainable Tourism KYOTO -消費する観光から、文化の発展につながる観光へ-）を2023年3月に発行。その際、「京都観光モラルを推進する会」が掲載事業者の選定を行っています。



### 【パートナー事業者との勉強会の実施】

- 自主事業として定期的に行っている**京都観光モラル・ミートアップ！vol.3**（2023年10月開催）では、和歌山大学観光学部（加藤久美研究室）、（一社）リリース、ニシザフステイ（株）と連携し、リジェネラティブ・ツーリズムの世界的リーディング企業である「The Centre for GOOD Travel」の共同設立者をゲストとして招き、京都観光モラル推進宣言事業者向けの勉強会を開催しました。



- 2022年度には、GSTC公式トレーニング研修を含む以下の5回の勉強会を開催しています。これらの勉強会は、観光庁「持続可能な観光推進モデル事業」における「持続可能な観光サービスを提供する地域の事業者群における取り組みの促進」に（株）JTB京都支店が採択され、実施しています。

<勉強会>

- ①GSTC公式トレーニング研修（10月25日～27日）※：高山傑氏「GSTC公式トレーニング研修 実地研修@京都市開催」
- ②第1回勉強会（10月26日）：和歌山大学 加藤久美先生「国際的なサステイナルツーリズムの動向と、ローカルレベルで取り組む意義とその方向性について」
- ③その他（11月22日）：「地域企業勉強会\_京都・地域企業応援プロジェクト」地域企業が多く集まる場で、プラットフォーム事業についての発表（タイトル：京都らしいサステナブル・ツーリズムを促すための実験と交流について）
- ④第2回勉強会（1月24日）：小坪拓也氏(株式会社カルティブ サービス事業部事業戦略室)「プラットフォームが自走化するためのビジネスモデル～企業版ふるさと納税を切り口に～」
- ⑤第3回勉強会（1月26日）：紫牟田伸子氏（編集家/プロジェクトエディター/デザインプロデューサー）「都市のコミュニケーションデザイン～多様な関係者を巻き込むためのヒントを探る～」

※京都観光モラル（京都観光行動基準）とは、京都市および京都市観光協会が2020年11月に京都の観光事業者/従事者、観光客、そして京都に住む市民のすべての人に対して大切にもらいたい行動基準として策定したものです。2022年度からは、京都観光モラルに沿った取り組みを推進する観光関連事業者の裾野を拡大するため、京都観光モラル推進宣言事業者の募集が行われています。

※LINK KYOTOには現在、7名のGSTC Professional Certificate in Sustainable Tourism試験合格者がいます（2024年3月時点）

参考資料：

株式会社JTB（2022, 6月23日）「Tourism1.5 ～ツーリズムフワード～（Vol.1）持続可能な観光」『自治体・行政機関向けWEBマガジン「#Think Trunk」』最終閲覧日、2024年3月25日、<https://www.jtbbwt.com/government/trend/detail/id=2247>

株式会社JTB（2023, 12月14日）「Tourism1.5～ツーリズムフワード～（vol.7）持続可能な地域づくり」『自治体・行政機関向けWEBマガジン「#Think Trunk」』、2024年3月25日、<https://www.jtbbwt.com/government/trend/detail/id=3254>